

社会科	「情報と社会」(情報を見分ける)	
5 学年	実施の時期 実践者	平成15年12月 鳴瀬町立小野小学校 佐藤 隆一

◎実践の概要

[単元の流れ]

新聞 ここで使いました

「情報と社会」

【生活の中の情報】

【情報を生かす】

【情報を見分ける】

これまでの学習をもとに、情報に囲まれた自分たちの生活のよい点と問題点について話し合う。

【情報社会のこれから】

【情報を発信する】

テレビ局と企業との関係は、コマーシャル放映と広告料で成り立っていること、そこには視聴率が大きく関係していることを捉えさせた。

その上で、日本テレビの社員による視聴率買収事件に関する新聞記事を取り上げた。「みんなが見る番組イコールよい番組か」「情報を受ける側である私たちは、どんなことに気をつけなくてはいいか」ということについて考えさせた。

◎実践を振り返って

- 視聴率買収事件から「視聴率」に興味をもっていた児童もおり、関心をもって学習に取り組む様子が見られた。
- 教科書に資料として「松本サリン事件」の新聞記事が載っていたが、さらに今回取り上げた新聞記事を加えることで、情報を受け取る側である私たちが、その情報の正確さに十分気をつけなくてはいいことを考える手助けとなった。「疑わしい情報は、簡単に誰かに教えないほうがよい」などの感想が見られた。
- 複数の新聞社の同じ日の一面の記事を示し、各社で取り扱いが少しずつ違うことを確かめさせた。一つの事件でも複数の新聞記事やテレビニュースを見ることで、より正確な情報を得ることができる、ということに気づかせることができた。